＜様式２＞

令和３年度　さいたま市立日進中学校　学校関係者評価書

さいたま市立日進中学校

学校関係者評価委員長　竹ノ谷　純宏　㊞

１　学校関係者評価の実施体制

（１）構成人数　１４人

（２）実施回数　３回（３回目は紙面開催）

２　学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

（１）協議内容

第１回　学校教育目標、学校経営方針、教育活動の重点、生徒の実態、、令和２年度日進中学校自己評価書
学校関係者評価書、令和３年度年間計画、いじめ防止基本方針、コミュニティ・スクール準備委員会

第２回　生徒の実態、３学期の行事予定、学校評価、いじめ対策委委員、コミュニティ・スクール準備委員会

第３回　生徒の実態、令和４年度の行事予定、学校評価、いじめ対策委委員、コミュニティ・スクール準備委員会

（２）質疑・意見等

・ＳＮＳのトラブルが昨年度より件数が減少している。また、いじめの早期発見について、学校として何か取り組みをしているのか。警察が入ったりすることがあるのか。学校が認知する形態はどのようなものがあるのか。

（回答：学校としては携帯安全教室や学活において、ＳＮＳについて生徒にを指導している。また、道徳の授業においても自分自身を見つめ自身の考えを学んでいる。ＳＮＳのトラブルの内容によっては警察が入る場合もある。心と生活のアンケートや生活の記録のノートの中で担任がいじめ等を認知することが多い。家庭内だけでは解決できない時代になっている。保護者のご理解とご協力をお願いしていく。）

・不登校だった生徒がオンライン授業には参加できているということだが、何かあったのか。また、オンライン授業が始まって不登校になった生徒がいるとはどういうことか。オンライン授業はどのように行われているのか。学校の現状はどうなのか。

（回答：登校は難しいが、オンライン授業（顔を出していない）なら参加できる生徒もいる。コロナの第５波の際、オンライン授業を希望した生徒が、気後れや疎外感を感じてしまい、学校へ行けなくなってしまった例もある。授業は、教室での通常授業とオンライン授業との併用授業である。３年生は受験を控えオンライン授業の生徒が多くなっている。学習保障に関しては、日々対応していく。学校での教育活動も大切であるので、家庭連絡や訪問等をしたりして生徒に寄り添うながらアプローチしていく。）

学校関係者評価を受けた学校の対応

〇今後も生徒一人ひとりに対して、寄り添いの姿勢で学校経営を続けていく。

〇生徒のよさを引き出し、小さな成功体験をさせることで、自己肯定感を高めていく。

〇アンテナを高くし、いじめや自傷行為などの早期発見早期対応ができるような積極的生徒指導体制を高めていく。

〇保護者や地域の方に生徒の活動・活躍など、「日進中だより」や学校ホームページを通して発信していく。

〇よい授業の４つに因子を踏まえた授業の実践を展開していく。また、家庭学習の指導も行い、学習習慣を身に付けさせる。

〇一人１台タブレットPCを活用することで、調べ学習をはじめ、話し合い活動、発表など、学習の幅を広げ、授業の拡充をさらに研究する。

〇通常授業とオンライン授業を併用することで、いつ、どの生徒に対しても学習する機会を確保する。

〇長期欠席の生徒に対しては、家庭への電話連絡をはじめ家庭訪問を繰り返し、生徒・保護者との連絡を密に行う。配付物等に関しては、家庭訪問の際に必ず届ける。

〇携帯電話を中心とするＳＮＳの使い方など、ルールやマナー、モラルについて、引き続き道徳や特別活動の授業、学年集会を通して生徒に指導していく。

〇次年度から始まるコミュニティ・スクールを通して、地域・保護者・学校で一体となり、生徒を育てていく。

さいたま市立日進中学校長　田所　泰久　印